



CHAPTER 12

システム メッセージ ログिंगの設定

この章では、システム メッセージ ログングを設定する方法を説明します。

この章では、次の内容について説明します。

- 「システム メッセージ ログングの概要」 (P.12-1)
- 「システム メッセージ ログング ファシリティ」 (P.12-2)
- 「注意事項および制約事項」 (P.12-5)
- 「デフォルト設定」 (P.12-5)
- 「システム メッセージ ログングの設定」 (P.12-5)
- 「システム メッセージ ログングの設定確認」 (P.12-14)
- 「システム メッセージ ログングの設定例」 (P.12-18)
- 「その他の関連資料」 (P.12-18)
- 「システム メッセージ ログング機能の履歴」 (P.12-18)

システム メッセージ ログングの概要

システム メッセージ ログングを使用すると、システム プロセスが生成するメッセージの宛先を制御し、重大度に基づいてメッセージをフィルタリングできます。端末セッション、ログ ファイル、およびリモート システム上の syslog サーバへのログングを設定できます。

システム メッセージ ログングは RFC 3164 に準拠しています。システム メッセージのフォーマットおよびデバイスが生成するメッセージの詳細については、『Cisco NX-OS System Messages Reference』を参照してください。

デバイスはデフォルトで、端末セッションにメッセージを出力します。端末セッションへのログングの設定については、「端末セッションへのシステム メッセージ ログングの設定」 (P.12-6) を参照してください。

表 12-1 で、システム メッセージに使用する重大度について説明します。重大度を設定すると、そのレベルとそれより下位レベルのメッセージが出力されます。

表 12-1 システム メッセージの重大度

レベル	説明
0：緊急事態	システムは使用不能
1：アラート	即時対処が必要
2：クリティカル	クリティカル条件

表 12-1 システム メッセージの重大度 (続き)

レベル	説明
3 : エラー	エラー条件
4 : 警告	警告条件
5 : 通知	正常だが重要な条件
6 : 情報	情報目的のメッセージ
7 : デバッグ	デバッグ時限定の表示

デバイスは、重大度 0、1、または 2 のメッセージのうち、最新の 100 個をログに記録します。

メッセージを生成したファシリティとメッセージの重大度に基づいて、記録するシステム メッセージを設定できます。ファシリティについては、「システム メッセージ ログ ファシリティ」(P.12-2)を参照してください。モジュールおよびファシリティごとの重大度の設定については、「モジュールのシステム メッセージ ログの設定」(P.12-8)を参照してください。

syslog サーバは、syslog プロトコルに基づいてシステム メッセージを記録するように設定されたりモートシステム上で動作します。最大 3 つの syslog サーバを設定できます。syslog サーバの設定については、「syslog サーバの設定」(P.12-11)を参照してください。



(注)

最初のデバイス初期化時に、メッセージが syslog サーバに送信されるのは、ネットワークの初期化後です。

システム メッセージ ログ ファシリティ

表 12-2 に、システム メッセージ ログ コンフィギュレーションで使用できるファシリティの一覧を示します。

表 12-2 システム メッセージ ログ ファシリティ

ファシリティ	説明
aaa	AAA マネージャ
aclmgr	ACL マネージャ
adjmgr	隣接マネージャ
all	すべてのファシリティを表すキーワード
arbiter	アービター マネージャ
arp	ARP マネージャ
auth	許可システム
authpriv	プライベート許可システム
bootvar	Bootvar
callhome	Call home マネージャ
capability	MIG ユーティリティ デーモン
cdp	CDP マネージャ
cert-enroll	証明書登録デーモン
cfs	CFS マネージャ

表 12-2 システム メッセージ ログイング ファシリティ (続き)

ファシリティ	説明
clis	CLIS マネージャ
cmpproxy	CMP プロキシ マネージャ
copp	CoPP マネージャ
core	コア デーモン
cron	cron および at スケジューリング サービス
daemon	システム デーモン
dhcp	DHCP マネージャ
diagclient	GOLD 診断クライアント マネージャ
diagmgr	GOLD 診断マネージャ
eltn	ELTM マネージャ
ethpm	イーサネット PM マネージャ
evmc	EVMC マネージャ
evms	EVMS マネージャ
feature-mgr	Feature マネージャ
fs-daemon	Fs デーモン
ftp	ファイル転送システム
glbp	GLBP マネージャ
hsrp	HSRP マネージャ
im	IM マネージャ
ipconf	IP コンフィギュレーション マネージャ
ipfib	IP FIB マネージャ
kernel	OS カーネル
l2fm	L2 FM マネージャ
l2nac	L2 NAC マネージャ
l3vm	L3 VM マネージャ
license	ライセンス マネージャ
local0	Local use daemon
local1	Local use daemon
local2	Local use daemon
local3	Local use daemon
local4	Local use daemon
local5	Local use daemon
local6	Local use daemon
local7	Local use daemon
lpr	ライン プリンタ システム
m6rib	M6RIB マネージャ
mail	メール システム
mfdm	MFDM マネージャ

表 12-2 システム メッセージ ログング ファシリティ (続き)

ファシリティ	説明
module	モジュール マネージャ
monitor	イーサネット SPAN マネージャ
mrrib	MRIB マネージャ
mvsh	MVSH マネージャ
news	USENET ニュース
nf	NF マネージャ
ntp	NTP マネージャ
otm	GLBP マネージャ
pblr	PBLR マネージャ
pfstat	PFSTAT マネージャ
pixm	PIXM マネージャ
pixmc	PIXMC マネージャ
pktmgr	パケット マネージャ
platform	プラットフォーム マネージャ
pltfm_config	PLTFM コンフィギュレーション マネージャ
plugin	プラグイン マネージャ
port-channel	ポート チャンネル マネージャ
port_client	ポート クライアント マネージャ
port_lb	診断ポート ループバック テスト マネージャ
qengine	Q エンジン マネージャ
radius	RADIUS マネージャ
res_mgr	リソース マネージャ
rpm	RPM マネージャ
security	セキュリティ マネージャ
session	セッション マネージャ
spanning-tree	スパンニング ツリー マネージャ
syslog	内部 syslog マネージャ
sysmgr	システム マネージャ
tcpudp	TCP および UDP マネージャ
u2	U2 マネージャ
u6rib	U6RIB マネージャ
ufdm	UFDN マネージャ
urib	URIB マネージャ
user	ユーザ プロセス
uucp	UNIX 間コピー システム
vdc_mgr	VDC マネージャ
vlan_mgr	VLAN マネージャ
vmm	VMM マネージャ

表 12-2 システム メッセージ ログイング ファシリティ (続き)

ファシリティ	説明
vshd	VSHD マネージャ
xbar	XBAR マネージャ
xbar_client	XBAR クライアント マネージャ
xbar_driver	XBAR ドライバ マネージャ
xml	XML エージェント

注意事項および制約事項

システム メッセージは、デフォルトでコンソールおよびログ ファイルに記録されます。

デフォルト設定

表 12-3 に、システム メッセージ ログイングのデフォルト設定を示します。

表 12-3 システム メッセージ ログイングのデフォルト

パラメータ	デフォルト
コンソール ログイング	重大度 2 でイネーブル
モニタ ログイング	重大度 5 でイネーブル
ログ ファイル ログイング	重大度 5 のメッセージ ログイングがイネーブル
モジュール ログイング	重大度 5 でイネーブル
ファシリティ ログイング	イネーブル。重大度については「システム メッセージ ログイング ファシリティ」(P.12-2) を参照
タイムスタンプ単位	秒
syslog サーバ ログイング	ディセーブル
syslog サーバ コンフィギュレーション配布	ディセーブル

システム メッセージ ログイングの設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「端末セッションへのシステム メッセージ ログイングの設定」(P.12-6)
- 「端末セッションのシステム メッセージ ログイングのデフォルトの復元」(P.12-7)
- 「モジュールのシステム メッセージ ログイングの設定」(P.12-8)
- 「モジュールのシステム メッセージ ログイングのデフォルトの復元」(P.12-9)
- 「ファシリティのシステム メッセージ ログイングの設定」(P.12-9)
- 「ファシリティのシステム メッセージ ログイングのデフォルトの復元」(P.12-11)

- 「syslog サーバの設定」(P.12-11)
- 「サーバのシステム メッセージ ログイングのデフォルトの復元」(P.12-12)
- 「UNIX または Linux システムを使用したログイングの設定」(P.12-13)
- 「ログ ファイルの表示」(P.12-13)



(注) NX-OS コマンドは Cisco IOS コマンドと異なる場合があることに注意してください。

端末セッションへのシステム メッセージ ログイングの設定

重大度に基づいて、コンソール、Telnet、および SSH セッションにメッセージを記録するには、ここに示す手順を実行します。

始める前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行しておく必要があります。

- デフォルトでは、端末セッションでのログイングがイネーブルです。

手順の概要

1. **terminal monitor**
2. **config t**
3. **logging console** [*severity-level*]
4. **show logging console**
5. **logging monitor** [*severity-level*]
6. **show logging monitor**
7. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	terminal monitor 例: n1000v# terminal monitor n1000v#	デバイスがコンソールにメッセージを記録できるようにします。
ステップ 2	config t 例: n1000v# config t n1000v(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	logging console [<i>severity-level</i>] 例: n1000v(config)# logging console 2 n1000v(config)#	指定された重大度とそれより上位の重大度のメッセージをコンソールセッションに記録するように、デバイスを設定します。重大度は表 12-1 に示したとおり、0 ~ 7 の範囲で指定できます。重大度を指定しなかった場合は、デフォルトの 2 が使用されます。

	コマンド	目的
ステップ 4	<code>show logging console</code>	(任意) コンソール ログイングの設定を表示します。
ステップ 5	<code>logging monitor [severity-level]</code> 例: n1000v(config)# logging monitor 3 n1000v(config)#	デバイスが指定された重大度とそれより上位の重大度のメッセージをモニタに記録できるようにします。この設定は、Telnet および SSH セッションに適用されます。重大度は表 12-1 に示したとおり、0 ~ 7 の範囲で指定できます。重大度を指定しなかった場合は、デフォルトの 2 が使用されます。
ステップ 6	<code>show logging monitor</code>	(任意) モニタ ログイングの設定を表示します。
ステップ 7	<code>copy running-config startup-config</code> 例: n1000v(config)# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

```
例:
n1000v# terminal monitor
n1000v# config t
n1000v(config)# logging console 2
n1000v(config)# show logging console
Logging console:                enabled (Severity: critical)
n1000v(config)# logging monitor 3
n1000v(config)# show logging monitor
Logging monitor:                enabled (Severity: errors)
n1000v(config)#
n1000v(config)# copy running-config startup-config
```

端末セッションのシステム メッセージ ログイングのデフォルトの復元

端末セッションのシステム メッセージ ログイングのデフォルト設定を復元するには、CLI グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを実行します。

コマンド	説明
<code>no logging console [severity-level]</code> 例: n1000v(config)# no logging console n1000v(config)#	デバイスによるコンソールへのメッセージのログイングをディセーブルにします。
<code>no logging monitor [severity-level]</code> 例: n1000v(config)# no logging monitor 3 n1000v(config)#	Telnet および SSH セッションへのメッセージ ログイングをディセーブルにします。

モジュールのシステム メッセージ ログिंगの設定

モジュールごとに記録されるメッセージの重大度とタイムスタンプ単位を設定するには、ここに示す手順を実行します。

手順の概要

1. `config t`
2. `logging module [severity-level]`
3. `show logging module`
4. `logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}`
5. `show logging timestamp`
6. `copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>config t</code> 例: n1000v# <code>config t</code> n1000v(config)#	CLI グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>logging module [severity-level]</code> 例: n1000v(config)# <code>logging module 3</code>	指定された重大度以上のモジュール ログ メッセージをイネーブルにします。重大度は表 12-1 に示したとおり、0 ~ 7 の範囲で指定できます。重大度を指定しなかった場合は、デフォルトの 5 が使用されます。
ステップ 3	<code>show logging module</code>	(任意) モジュール ログिंग設定を表示します。
ステップ 4	<code>logging timestamp {microseconds milliseconds seconds}</code> 例: n1000v(config)# <code>logging timestamp microseconds</code>	ログング タイムスタンプ単位を設定します。デフォルトの単位は秒です。
ステップ 5	<code>show logging timestamp</code>	(任意) 設定されているログング タイムスタンプ単位を表示します。
ステップ 6	<code>copy running-config startup-config</code> 例: n1000v(config)# <code>copy running-config startup-config</code>	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

次に、モジュールのシステム メッセージ ログिंगを設定する例を示します。

```
n1000v# config t
```



```

n1000v(config)# logging module 3
n1000v(config)# show logging module
Logging linecard:                enabled (Severity: errors)
n1000v(config)# logging timestamp microseconds
n1000v(config)# show logging timestamp
Logging timestamp:                Microseconds
n1000v(config)# copy running-config

```

モジュールのシステム メッセージ ログिंगのデフォルトの復元

モジュールのシステム メッセージ ログिंगのデフォルト設定を復元するには、CLI グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを実行します。

コマンド	説明
no logging module [<i>severity-level</i>] 例: n1000v(config)# no logging module 3 n1000v(config)#	モジュールのシステム メッセージ ログिंगのデフォルトの重大度を復元します。
no logging timestamp { <i>microseconds</i> <i>milliseconds</i> <i>seconds</i> } 例: n1000v(config)# no logging timestamp milliseconds	ログング タイムスタンプ単位をデフォルトの秒にリセットします。

ファシリティのシステム メッセージ ログिंगの設定

ファシリティごとに記録されるメッセージの重大度とタイムスタンプ単位を設定するには、ここに示す手順を実行します。

手順の概要

1. **config t**
2. **logging level** *facility severity-level*
3. **show logging level** [*facility*]
4. **logging timestamp** {*microseconds* | *milliseconds* | *seconds*}
5. **show logging timestamp**
6. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>config t</code> 例: n1000v# <code>config t</code> n1000v(config)#	CLI グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>logging level facility severity-level</code> 例: n1000v(config)# <code>logging level aaa 3</code> n1000v(config)#	指定されたファシリティからの、指定した重大度以上のメッセージ ログングをイネーブルにします。ファシリティについては、「システム メッセージ ログング ファシリティ」(P.12-2) を参照してください。重大度は表 12-1 に示したとおり、0 ~ 7 の範囲で指定できます。すべてのファシリティに同じ重大度を適用する場合は、facility に all を使用します。デフォルトについては、 show logging level コマンドを参照してください。
ステップ 3	<code>show logging level [facility]</code> 例: n1000v(config)# <code>show logging level aaa</code>	(任意) ファシリティ別に、ログング レベルの設定およびシステム デフォルト レベルを表示します。ファシリティを指定しなかった場合は、すべてのファシリティのレベルが表示されます。
ステップ 4	<code>logging timestamp {microseconds milliseconds seconds}</code> 例: n1000v(config)# <code>logging timestamp microseconds</code>	ログング タイムスタンプ単位を設定します。デフォルトの単位は秒です。
ステップ 5	<code>show logging timestamp</code>	(任意) 設定されているログング タイムスタンプ単位を表示します。
ステップ 6	<code>copy running-config startup-config</code> 例: n1000v(config)# <code>copy running-config startup-config</code>	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

ファシリティのシステム メッセージ ログングの設定例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# logging level aaa 3
n1000v(config)# show logging level aaa
Facility           Default Severity   Current Session Severity
-----
aaa                 2                   3

0(emergencies)     1(alerts)          2(critical)
3(errors)           4(warnings)        5(notifications)
6(information)     7(debugging)
```

```
logging timestamp microseconds
n1000v(config)# show logging timestamp
Logging timestamp:           Microseconds
copy running-config startup-config
```

ファシリティのシステム メッセージ ログイングのデフォルトの復元

ファシリティのシステム メッセージ ログイングのデフォルトを復元するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	説明
<pre>no logging level [<i>facility severity-level</i>]</pre> <p>例： n1000v(config)# no logging level aaa 3 n1000v(config)#</p>	指定したファシリティのデフォルトのログイング重大度を復元します。ファシリティおよび重大度を指定しなかった場合、すべてのファシリティがそれぞれのデフォルト重大度にリセットされます。
<pre>no logging timestamp {<i>microseconds</i> <i>milliseconds</i> <i>seconds</i>}</pre> <p>例： n1000v(config)# no logging timestamp milliseconds</p>	ログイング タイムスタンプ単位をデフォルトの秒にリセットします。

syslog サーバの設定

システム メッセージ ログイングのための syslog サーバを設定するには、ここに示す手順を実行します。

手順の概要

1. `config t`
2. `logging server host [severity-level [use_vrf vrf-name]]`
3. `show logging server`
4. `copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>config t</code> 例: n1000v# config t n1000v(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>logging server host [severity-level [use-vrf vrf-name]]</code> 例: n1000v(config)# logging server 10.10.2.2 7	指定のホスト名または IPv4/IPv6 アドレスで syslog サーバを設定します。 use_vrf キーワードを使用すると、メッセージ ログングを特定の VRF に限定できます。重大度は表 12-1 に示したとおり、0 ~ 7 の範囲で指定できます。デフォルトの発信ファシリティは local7 です。 この例では、ファシリティ local 7 のすべてのメッセージを転送します。
ステップ 3	<code>show logging server</code> 例: n1000v(config)# show logging server Logging server: enabled {10.10.2.2} server severity: debugging server facility: local7	(任意) syslog サーバの設定を表示します。
ステップ 4	<code>copy running-config startup-config</code> 例: n1000v(config)# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

サーバのシステム メッセージ ログングのデフォルトの復元

サーバのシステム メッセージ ログングのデフォルトを復元するには、ここに示す手順を実行します。

コマンド	説明
<code>no logging server host</code> 例: n1000v(config)# no logging server host	指定されたホストに対応するログングサーバを削除します。

UNIX または Linux システムを使用したロギングの設定

UNIX または Linux システムでメッセージ ロギングを設定するには、ここに示す手順を実行します。

始める前に

この手順を開始する前に、次の点を理解または実行しておく必要があります。

- 次に示すのは、syslog 用に設定する UNIX または Linux のフィールドです。

フィールド	説明
Facility	メッセージの作成元。auth、authpriv、cron、daemon、kern、lpr、mail、mark、news、syslog、user、local0 ~ local7、またはすべてを表すアスタリスク (*)。これらのファシリティ指定によって、発信元に基づいてメッセージの宛先を制御できます。 (注) ローカル ファシリティを使用する前に、コンフィギュレーションを確認してください。
Level	メッセージを記録する最小の重大度。debug、info、notice、warning、err、crit、alert、emerg、またはすべてを表すアスタリスク (*) を指定できます。ファシリティをディセーブルにする場合は、none を使用します。
Action	メッセージの宛先。ファイル名、前に @ 記号を加えたホスト名、ユーザをカンマで区切ったリスト、またはすべてのログイン ユーザを表すアスタリスク (*) を使用できます。

手順の詳細

ステップ 1 UNIX または Linux システムで、次の内容をファイル /var/log/myfile.log に追加します。

```
facility.level <five tab characters> action
```

例:

```
debug.local7 /var/log/myfile.log
```

ステップ 2 シェル プロンプトに次のコマンドを入力し、ログ ファイルを作成します。

```
$ touch /var/log/myfile.log
$ chmod 666 /var/log/myfile.log
```

ステップ 3 コマンド入力後に myfile.log を調べ、システム メッセージ ロギング デーモンが新しい設定変更を読み取ったかどうかを確認します。

```
$ kill -HUP ~cat /etc/syslog.pid~
```

ログ ファイルの表示

ログ ファイル中のメッセージを表示するには、ここに示す手順を実行します。

手順の概要

1. show logging last number-lines

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>show logging last number-lines</code>	ログ ファイルの末尾から指定行数を表示します。最終行番号として 1 ~ 9999 を指定できます。

次に、ログ ファイル内の最後の 5 行を表示する例を示します。

```
n1000v# show logging last 5
2008 Aug 31 09:37:04 CP-beta2 %KERN-3-SYSTEM_MSG: packet_recvms
g: truncated packet (size=1514 left=1500) - kernel
2008 Aug 31 09:37:04 CP-beta2 %KERN-3-SYSTEM_MSG: packet_recvms
g: truncated packet (size=1514 left=1500) - kernel
2008 Aug 31 09:37:05 CP-beta2 %KERN-3-SYSTEM_MSG: packet_recvms
g: truncated packet (size=1514 left=1500) - kernel
2008 Aug 31 09:37:05 CP-beta2 %KERN-3-SYSTEM_MSG: packet_recvms
g: truncated packet (size=1514 left=1500) - kernel
2008 Aug 31 09:37:05 CP-beta2 %KERN-3-SYSTEM_MSG: packet_recvms
g: truncated packet (size=1514 left=1500) - kernel
n1000v#
```

システム メッセージ ログिंगの設定確認

システム メッセージ ログिंगの設定情報を確認するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>show logging console</code>	コンソール ログिंगの設定を表示します。 例 12-1 (P.12-15) を参照してください。
<code>show logging info</code>	ログिंगの設定を表示します。 例 12-2 (P.12-15) を参照してください。
<code>show logging last number-lines</code>	ログ ファイルの末尾から指定行数を表示します。 例 12-3 (P.12-16) を参照してください。
<code>show logging level [facility]</code>	ファシリティ ログिंगの重大度の設定を表示します。 例 12-4 (P.12-17) を参照してください。
<code>show logging module</code>	モジュール ログिंगの設定を表示します。 例 12-5 (P.12-17) を参照してください。
<code>show logging monitor</code>	モニタ ログिंगの設定を表示します。 例 12-6 (P.12-17) を参照してください。
<code>show logging server</code>	syslog サーバの設定を表示します。 例 12-7 (P.12-17) を参照してください。
<code>show logging session</code>	ログिंगセッション ステータスを表示します。 例 12-8 (P.12-17) を参照してください。

コマンド	目的
show logging status	ログング ステータスを表示します。 例 12-9 (P.12-17) を参照してください。
show logging timestamp	設定されているログング タイムスタンプ単位の 設定を表示します。 例 12-10 (P.12-17) を参照してください。

例 12-1 `show logging console`

```
n1000v# show logging console
Logging console:                disabled
n1000v#
```

例 12-2 `show logging info`

```
n1000v# show logging info

Logging console:                enabled (Severity: critical)
Logging monitor:                enabled (Severity: notifications)
Logging linecard:              enabled (Severity: notifications)
Logging timestamp:              Seconds
Logging server:                 disabled
Logging logfile:                enabled
                               Name - g/external/messages: Severity - notifications Size - 4194304
```

Facility	Default Severity	Current Session Severity
-----	-----	-----
aaa	2	2
auth	0	0
authpriv	3	3
bootvar	5	5
callhome	2	2
cdp	2	2
cert_enroll	2	2
cfs	3	3
confcheck	2	2
cron	3	3
daemon	3	3
diagclient	2	2
diagmgr	2	2
eth_port_channel	5	5
ethpm	5	5
evmc	5	5
evms	2	2
feature-mgr	2	2
ftp	3	3
ifmgr	5	5
igmp_1	3	3
ip	2	2
ipv6	2	2
kern	6	6
l2fm	2	2
licmgr	6	6
local0	3	3
local1	3	3
local2	3	3
local3	3	3
local4	3	3

■ システム メッセージ ログिंगの設定確認

```

local5                3                3
local6                3                3
local7                3                3
lpr                   3                3
mail                  3                3
mfdm                  2                2
module                5                5
monitor               7                7
msp                   2                2
mvsh                  2                2
news                  3                3
ntp                   2                2
otm                   3                3
pblr                  2                2
pixm                  2                2
pixmc                 2                2
platform              5                5
portprofile           5                5
private-vlan          3                3
radius                2                2
res_mgr               2                2
rpm                   2                2
sal                   2                2
securityd             2                2
sksd                  3                3
stp                   3                3
syslog                3                3
sysmgr                3                3
ufdm                  2                2
urib                  3                3
user                  3                3
uucp                  3                3
vdc_mgr               6                6
vim                   5                5
vlan_mgr              2                2
vms                   5                5
vshd                  5                5
xmlma                 3                3

0(emergencies)        1(alerts)          2(critical)
3(errors)              4(warnings)        5(notifications)
6(information)        7(debugging)
n1000v$

```

例 12-3 `show logging last`

```

n1000v# show logging last 5
2008 Jul 29 17:52:42 S22-DCOS %ETHPORT-5-IF_UP: Interface Ethernet2/5 is up in mode access
2008 Jul 29 17:52:43 S22-DCOS %ETHPORT-5-IF_UP: Interface Ethernet2/2 is up in mode trunk
2008 Jul 29 17:52:43 S22-DCOS %ETHPORT-5-IF_UP: Interface Ethernet2/4 is up in mode access
2008 Jul 29 17:53:04 S22-DCOS %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: process_cfg_write: PID 1858 with
message rcvd cfg_action from
sap 0x545 for vdc 1 at time 1217353984 .
2008 Jul 29 17:53:04 S22-DCOS clis[2558]: CLI-3-NVDB: Batched send failed for component:
clis
n1000v#

```


例 12-4 show logging level aaa

```
n1000v# show logging level aaa
Facility           Default Severity       Current Session Severity
-----
aaa                 2                       2

0 (emergencies)    1 (alerts)              2 (critical)
3 (errors)          4 (warnings)            5 (notifications)
6 (information)    7 (debugging)
n1000v#
```

例 12-5 show logging module

```
n1000v# show logging module
Logging linecard:          enabled (Severity: notifications)
n1000v#
```

例 12-6 show logging monitor

```
n1000v# show logging monitor
Logging monitor:          enabled (Severity: errors)
n1000v#
```

例 12-7 show logging server

```
n1000v# show logging server
Logging server:          enabled
{10.10.2.2}
    server severity:      debugging
    server facility:      local7
n1000v#
```

例 12-8 show logging session status

```
n1000v# show logging session status
Last Action Time Stamp   : Fri Nov 18 11:28:55 1910
Last Action               : Distribution Enable
Last Action Result       : Success
Last Action Failure Reason : none
n1000v#
```

例 12-9 show logging status

```
n1000v# show logging status
Fabric Distribute        : Enabled
Session State            : IDLE
n1000v#
```

例 12-10 show logging timestamp

```
n1000v# show logging timestamp
Logging timestamp:       Seconds
n1000v#
```

システム メッセージ ログिंगの設定例

システム メッセージ ログिंगの設定例を示します。

```
config t
 logging console 3
 logging monitor 3
 logging logfile my_log 6
 logging module 3
 logging level aaa 2
 logging timestamp milliseconds
 logging distribute
 logging server 172.28.254.253
 logging server 172.28.254.254 5 local3
 logging commit
 copy running-config startup-config
```

その他の関連資料

システム メッセージ ログिंगの実装に関連する詳細情報については、次の項を参照してください。

- 「[関連資料](#)」(P.12-18)
- 「[標準規格](#)」(P.12-18)

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
システム メッセージ	『Cisco NX-OS System Messages Reference』
詳細なコマンド構文、コマンド モード、コマンド履歴、デフォルト、使用上の注意事項、例	『Cisco Nexus 1000V Command Reference, Release 4.0(4)SV1(3)』

標準規格

標準規格	タイトル
この機能でサポートされる新規または改訂された標準規格はありません。また、この機能による既存の標準規格サポートの変更はありません。	—

システム メッセージ ログिंग機能の履歴

ここでは、システム メッセージ ログिंग機能のリリース履歴を示します。

機能名	リリース	機能情報
システム メッセージ ログング	4.0(4)SV1(1)	この機能が追加されました。